

# 1

ふりがな かみいど  
名称 **神井戸**

地区 水谷  
水子

種別 湧水、石造物  
時代

指定



古くからこの地域の生活用水、農業用水として利用されてきた入会地的な場所であった。江嶋神社として、弁財天と石祠、鳥居、石橋がある。弁財天の石祠は享保3年(1718)に講中38人によって造立。鳥居は昭和13年(1938)に山崎組によって造立。

# 2

ふりがな きゅうかねこけじゅうたく・しゅや  
名称 **旧金子家住宅・主屋**

地区 水谷  
下南畑568-1  
(難波田城公園)

種別 建造物  
時代 近代

指定 市(有形)



木造平屋建、寄棟茅葺の古民家。規模は、桁行8間、梁間4間。居間は、4部屋からなる「四ツ間取」と呼ばれる、関東地方の農家で江戸時代末期からよく見られる形式である。金子家は、江戸時代末期から農業のかたわら油商を営んでおり、正面西側の出入り口は商家に多い揚げ戸である。棟札などから明治4年(1871)の建築。現在は難波田城公園に移築。

# 3

ふりがな だいにちによらいのこうしんどう  
名称 **大日如来の庚申塔**

地区 水谷  
水子  
(不動寺跡)

種別 石造物  
時代 近世

指定



大日如来は真言宗の主尊で、庚申塔には珍しく衆徒の造立を思わせるが、施主も年号も見当たらない。頂に太陽と瑞雲、中央に大日如来の文字、下側に三猿という簡素なもの。しかし、三猿は彫りも深く立体的である。大日如来とカエルの伝説がある。現在は住宅の奥に移設されている。

# 4

ふりがな こうさつ  
名称 **高札**

地区 水谷  
下南畑568-1  
(難波田城資料館)

種別 歴史  
時代 近世

指定



水子上組に掲げられたキリシタン禁止が記された高札。天和2年(1682)。

# 5

ふりがな おっこしいせきしゅつどのおっこしきどき  
名称 **打越遺跡出土の打越式土器**

地区 水谷  
水子2003-1  
(水子貝塚資料館)

種別 考古  
時代 縄文

指定



打越遺跡はみずほ台小学校を含めた周辺に位置し、縄文時代早期末の大規模な集落跡である。打越式土器は縄文時代早期末の土器型式のひとつで、この遺跡から出土した資料を標識として提唱された。ハイガイやサルボウなどの貝殻の縁を利用して文様をつけ、尖底で砲弾に似た器形を特徴とする。

# 6

ふりがな ふじさん  
名称 **富士山**

地区 水谷  
水子  
(北側氷川神社)

種別 民俗、石造物  
時代 近代

指定



昭和20年(1945)4月2日の空襲で崩壊し、その後現在の神社境内に移築された。「浅間大神」と刻まれた明治29年(1896)造立の石碑がある。

7

ふりがな みずこかみぐみはやし  
名称 水子上組囃子

地区 水谷  
水子  
近世～  
種別 民俗  
時代  
指定 市(民俗)



江戸時代嘉永年間(1848～54)に伝えられたとされ、水子上組囃子連により保存継承され、現在まで中断したことはない。天王様の祭礼のときに神社から神酒所とどこへ行くにも屋台から始まり屋台で終わることになっている。かつては調子の緩やかな古囃子であったというが、現在はテンポのある新囃子へと変わってきている。

8

ふりがな おわりけたかば、みずこじんやまもりのいえのぶんかざい  
名称 尾張家鷹場、水子陣屋守りの家の文化財

地区 水谷  
水子  
種別 建造物、植物  
時代 近世  
指定



尾張家鷹場の水子陣屋は、寛政5年(1793)に増田家の南西に約900坪の地に建てられたが、慶応3年(1867)に廃止された。その後、明治時代になり火災で焼失したという。しかし、増田家には当時の裏門や藩から拝領したと伝える柿の木、尾張藩鷹場の範囲を示す石杭が残されている。

9

ふりがな ねまちとう(こうしだいこくてん)  
名称 子待塔(甲子大黒天)

地区 水谷  
水子

種別 石造物  
時代 近世  
指定



灯籠の竿の部位に、「日本最初 甲子大黒天 天和元辛酉年正月甲子日 河内国古市郡 大黒村 大黒寺 願主 山田庄左右衛門」と刻まれている。河内国古市郡の大黒寺を参詣した願主が天和元年(1681)に造立。

10

ふりがな なみきじぞう  
名称 並木地蔵

地区 水谷  
東みずほ台1

種別 石造物  
時代 近世  
指定



丸彫り型の延命地蔵。昔からの街道筋にあたる場所に立っている。四辻や村境などに多く置かれ、悪疫退散や旅の安全を守り村の守護仏として建てられたもの。享保8年(1723)造立。

11

ふりがな さんのうざかじぞう  
名称 山王坂地蔵

地区 水谷  
水子

種別 石造物  
時代 近世  
指定



旧江戸道の山王坂にある。並木・石井真光寺の地蔵と合わせて「水子の三地蔵」とも呼ばれる。また、富士見市にある丸彫りの四大地蔵の一つでもある。元禄14年(1701)造立。

12

ふりがな つきみばし  
名称 月見橋

地区 水谷  
水子、針ヶ谷1

種別 建造物  
時代 近代～近代  
指定



大正3年(1914)東上線鉄道敷設工事により水谷地区の台地を切り通したことにより地区が分断されることから、生活のための通路として架けられたのが始まりである。昭和28年(1953)複線化により2代目に、平成23年(1910)老朽化により3代目に架け替えられた。現在も水子と針ヶ谷の生活の架け橋となっている。

13

ふりがな みずたにむらこうちせいりしゆんこうひ

名称 水谷村耕地整理竣工碑

地区 水谷  
水子  
(正網水川神社)

種別 石造物

時代 近代

指定



明治43年(1910)の大洪水後、水谷村では関係農家が耕地整理組合を設立し、約7カ月で85町余の田の整備が完成した記念碑。当時、農家の約半分が組合に参加し、村の水田の約3分の2を整備するという大事業であった。大正2年(1913)造立。

14

ふりがな べんざいてん

名称 弁財天

地区 水谷  
水子  
(正網水川神社)

種別 石造物

時代 近世

指定



寛延2年(1761)造立。水紋に乗って頭上の宝冠に鳥居が見られる大変珍しく入間東部唯一のもの。

15

ふりがな だいらくてんぐう

名称 大楽天宮

地区 水谷  
水子  
(正網水川神社)

種別 石造物

時代 近世

指定



「妙音大楽天宮」を省略した「大楽天宮」の文字塔。琵琶を弾く弁財天を文字に表わしたもの。宝暦11年(1761)造立。

16

ふりがな みずたにむらにちろせんえきちゆうこんひ

名称 水谷村日露戦役忠魂碑

地区 水谷  
水子  
(正網水川神社)

種別 石造物

時代 近代

指定



明治41年(1908)2月、水谷村軍友会の建立。水谷村より日露戦争に51名が従軍し、そのうち戦死者6名、凱旋者46名。碑文字は乃木希典。

17

ふりがな なかみずこはやし

名称 中水子囃子

地区 水谷  
水子

種別 民俗

時代 近世～

指定 市(民俗)



太鼓の胴に江戸時代末期の万延元年(1860)と記されていることから、それ以前にから始められていた。中水子囃子連により保存継承されている。曲目に、他の囃子ではあまり行わない宮昇殿と大間昇殿が曲目にあるのが特徴である。主な活動は、5月5日の「獅子様」と呼ばれる平心講の祭礼が中心である。

18

ふりがな みずほだいえきひがしぐちもにゆめんと「ずいこう」

名称 みずほ台駅東口モニュメント「瑞光」

地区 水谷  
東みずほ台2

種別 建造物

時代 現代

指定



三本の柱は、三村合併による市誕生の歴史的流れを表すとともに、市政の三本柱である豊かな市民生活の確立、都市施設の充実及び教育文化の振興を表現し、新しい街東みずほ台の限らない発展を象徴している。ステンレス、スチール及びブロンズ製で高さ8m。昭和52年(1977)造立。

19

ふりがな みずほだいえきにしぐちもにゆめんと「わ」

名称 **みずほ台駅西口モニュメント「和」**

地区 水谷  
西みずほ台1

種別 建造物  
時代 現代

指定



三条の流れるような波長から構成される。明るく住みよい豊かな西みずほ台の無限の発展を象徴している。ステンレス、スチール及び人造石コンクリート製で円の直径は2.6m。昭和52年(1977)造立。

20

ふりがな ぎょうばあと

名称 **行場跡**

地区 水谷  
水子

種別 石造物  
時代 近世

指定



別所阿弥陀堂の斜面下の木立の中の湧水池だった。羽黒山系の修験者が、飲まず、食わず、眠らずの7日間の禊を修したところで、古い塔には「天保年間諸民救助、高野辰次郎之行場也」と彫られていた。

21

ふりがな べっしょあみだどう

名称 **別所阿弥陀堂**

地区 水谷  
水子

種別 建造物  
時代 近世～近代

指定



俗称「五郎死墓堂」。鎌倉時代に一心長来という僧が開山し、その僧の墓を五郎死墓という。以前は、両墓制の墓地であった。堂内にあった阿弥陀像は弘法大師が描いたとされる。平成26年(2014)9月に堂宇は解体され、阿弥陀像は大應寺に移された。

22

ふりがな からはふつきこうしんどう

名称 **唐破風付庚申塔**

地区 水谷  
水子  
(別所阿弥陀堂)

種別 石造物  
時代 近世

指定



寛文12年(1672)市内で2番目に造立された庚申塔で、唐波風の笠を乗せた大型のもの。表は青面金剛の浮彫の他は、願文、年号、願主13人とある。他の三面には梵字の阿弥陀三尊や光明真言の陰刻。猿は三面に一匹ずつ浮彫という手の込んだ石塔である。

23

ふりがな かまくらみち

名称 **鎌倉道**

地区 水谷  
水子

種別 民俗  
時代 古代～中世

指定



鎌倉幕府は鎌倉と各地を結ぶ鎌倉街道を整備し、その1つに鎌倉～東京～埼玉県東部～東北方面につながる奥州街道があった。市内に残る鎌倉道はその枝道と考えられ、宗岡(志木市)から下南畑～水子～針ヶ谷から所沢へと延びている。現在では水子の石井周辺の台地の縁辺にわずかに面影を残すだけである。

24

ふりがな おいど

名称 **おいど(お井戸・大井戸)**

地区 水谷  
水子

種別 湧水、石造物  
時代 近世～近代

指定



斜面の2カ所所の湧水を堰き止めたコの字型の池で、市内2位の水量がある。「おいど」と言うのは、井戸が大きい大井戸、水量が多い多井戸、水神を祀る御井戸などの説がある。すぐ前を台地を辿る鎌倉道があり、旅人の憩いの場所だった昔が偲ばれる。水神は享保15年(1730)の弁財天と年号のない琵琶を弾く弁財天。

25

ふりがな うえだすおうのかみのごりんとう

名称 上田周防守の五輪塔

地区 水谷  
水子  
(性蓮寺)

種別 石造物  
時代 中世

指定



難波田氏に代わって難波田城主となった上田周防守の五輪塔と言われる。宝篋印塔の笠部と混成する。五輪塔の地輪に「法」、「四月十六日 上田周防守」、「日道」の銘文がある。年後王は欠損しているが、天正5年(1577)と推定される。

26

ふりがな ろくめんろくじぞう

名称 六面六地藏

地区 水谷  
水子  
(薬師堂墓地)

種別 石造物  
時代 近世

指定



旧薬師堂墓地に立つ六地藏は円柱を六面体に加工して、各面に六体の地藏を浮き彫りにされている。明治6年(1875)の造立で、あまり風化も進んでいない。

27

ふりがな はくさんさんしよだいごんげんのせきとう

名称 白山三所大権現の石塔

地区 水谷  
水子  
(八幡神社)

種別 石造物  
時代 近世

指定



白山信仰本来の造立ではなく、白山の白を清廉潔白と解して、今度生まれ変わるときは身も心も清く生まれてくるよう祈願したものと言われる。宝暦6年(1756)造立。

28

ふりがな しょうぐんじぞう

名称 勝軍地藏

地区 水谷  
水子

種別 石造物  
時代 近世

指定



久保田新田の榛名講中造立で、甲冑を付け左手に宝珠右手に錫杖を持った騎馬地藏像。入間東部地区でも三富のほか数少ない火伏に関係する地藏で、市内唯一のもの。文化3年(1806)造立。

29

ふりがな みずこしいいはやし

名称 水子石井囃子

地区 水谷  
水子

種別 民俗  
時代 近世～

指定 市(民俗)



江戸時代末期の万延元年(1860)に三芳町竹間沢から囃子を、踊りは同じく竹間沢の神楽師前田太夫から習ったものと伝えられている。水子石井囃子保存会により保存継承され、現在まで中断したことはない。曲目として仁羽、屋台、仕丁舞、昇殿、神田丸、鎌倉がある。

30

ふりがな ふもんぼんとう

名称 普門品塔

地区 水谷  
水子

種別 石造物  
時代 近世

指定



法華経は28品からなり、第25品が観音経普門品で一般には普門品とも呼ばれている。享保17年(1732)造立個人名の塔に、奉納普門品二万巻諸願成就とあるので、598文字からなる観音経を和紙一枚に写経して、二万枚奉納したと言われている。

31

ふりがな きゅうみずたにむらぎょうせいもんじょ

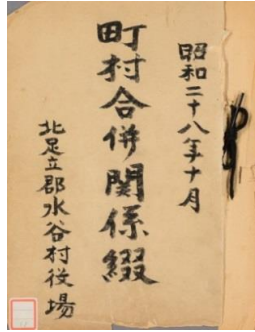
名称 旧水谷村行政文書

地区 水谷  
下南畑568-1  
(難波田城資料館)

種別 歴史

時代 現代

指定



明治時代終わりから昭和30年代半ばにかけての旧水谷村の行政文書。昭和19年(1944)の志紀町との合併、昭和23年(1948)の志紀町からの分離独立や富士見村誕生まで町村合併資料をはじめ、戦前戦後の富士見市の歩みの一端を伝える資料。

32

ふりがな みずこかいづか

名称 水子貝塚

地区 水谷  
水子2003-1  
(水子貝塚公園)

種別 貝塚

時代 縄文

指定 国(史跡)



縄文海進で荒川低地に海が広がっていた縄文時代前期中頃(約6000年前)の集落跡。約60カ所の地点貝塚が、直径約160mの環状に分布する。昭和13年(1938)に発掘されて以降、数回の調査が行われ、昭和44年(1969)に国史跡に指定され、平成6年(1994)に「縄文ふれあい広場 水子貝塚公園」として開園した。

33

ふりがな だいおうじの「しょうろうもん」と「つりがね」

名称 大應寺の「鐘楼門」と「釣鐘」

地区 水谷  
水子  
(大應寺)

種別 建造物

時代 近世、近代

指定



山門は、享保4年(1719)に造立された赤塗の鐘楼門である。床面積の割に高さがあるので風に弱く不安定であるため釣鐘で安定を保っていた。釣鐘は、戦時中に供出され、戦後しばらくは同じくらいのセメントの鐘で安定を図っていたという。現在は新しい釣鐘が铸造されているが、セメント製の鐘は境内に保存されている。

34

ふりがな だいおうじの「ぜにがく」

名称 大應寺の「銭額」

地区 水谷  
水子  
(大應寺)

種別 歴史

時代 近世

指定



本堂内に寛永通宝を用いて文字を書いた「銭額」がある。縦1.5m、横1mの文字額。文化12年(1815)に願主田中治兵衛により奉納された。現在は400枚位が残されているが、当初は800枚ほどあったらしい。奉納した治兵衛は、山下河岸の船問屋「山田屋」の関係者と考えられる。

35

ふりがな どうひょうめいのあるこうしんとう

名称 道標銘のある庚申塔

地区 水谷  
水子  
(大應寺)

種別 石造物

時代 近世

指定



台座石に道しるべが彫られている庚申塔。「坂上引又道 江戸道 向藤久保道 右川越道」。宝暦5年(1755)造立。元は水子字打越にあったものを移設した。

36

ふりがな いぬのはか

名称 犬の墓

地区 水谷  
水子  
(大應寺)

種別 石造物

時代 近世

指定



般若院の修験者が聖護院に登院した際、愛犬を連れていったが帰り着いたときに死んだため、塚をつくり手厚く葬った。その後、飼い主も亡くなり、墓を塚の上につくったことから犬塚(犬の墓)と伝えられている。

37

ふりがな だいおうじぼちのきよだいなほひ

名称 大應寺墓地の巨大な墓碑

地区 水谷  
水子  
(大應寺)

種別 石造物  
時代 近世

指定



大應寺墓地にある天保15年(1844)造立の「山田屋」と深彫りした墓碑は、総高2mあまりあり、このような巨大なものは市内はもとより近隣でも例のない大きさと言われている。当時は天保改革の時期であり、その中でこれだけ大きな墓石を建てることができた「山田屋」の当時の羽振りが偲ばれる。

38

ふりがな みずみやじんじやの「こまがえる」

名称 水宮神社の「狷蛙」

地区 水谷  
水子  
(水宮神社)

種別 石造物  
時代 現代

指定



水子山崎の元柴崎山不動院のカエル伝説(人間のように立って歩きたい)を守り継承していく願を込めて氏子の人たちが本殿前に造立したもの。

39

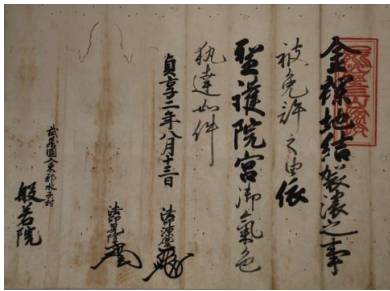
ふりがな みずみやけはんによんもんじよ

名称 水宮家般若院文書

地区 水谷  
水子  
(水宮神社)

種別 古文書  
時代 近世

指定 市(有形)



江戸時代に摩訶山般若院として十玉院配下の本山派修験道の活動を水子を中心に続け、明治時代初期の修験道廃止後は神職をつとめてきた水宮家に伝わる古文書。貞享2年(1685)の熊野三山若王子御房役所からの免許状をはじめ、十玉院との間で交わされた文書など市域の修験道の実態を知ることができる。

40

ふりがな やましたがしあと

名称 山下河岸跡

地区 水谷  
水子

種別 遺跡  
時代 近世～近代

指定



市内には、伊佐島河岸、蛇木河岸、本河岸、鶉河岸、山下河岸、前河岸の6河岸があった。松の木坂を下ったところに山下河岸があった、河岸問屋の茗荷屋と山田屋は、江戸時代延享期(1744～1747)頃から河岸場を開設していた。現在は、サイクリングロードの南側の斜面林に船着き場としての雰囲気を残す。

41

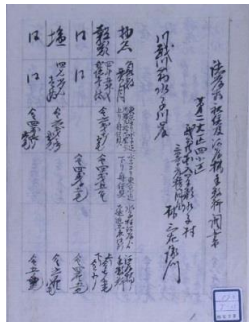
ふりがな みようがやしゅううんかんけいもんじよ

名称 茗荷屋舟運関係文書

地区 水谷  
水子

種別 古文書  
時代 近世～近代

指定



山下河岸で、茗荷屋として船問屋を営んでいた林家に伝えられた舟運に関する江戸時代から明治時代にかけての古文書。江戸時代の化政期から天保期にかけての諸荷物の出荷控えがまとまって残されており、当時の商品流通から近隣の農村の姿を垣間見ることができる。

42

ふりがな みちしるべ

名称 道しるべ

地区 水谷  
水子

種別 石造物  
時代 近世

指定 市(有形)



所沢方面から山下河岸に通じる河岸道と、川越～志木を結ぶ道の交差点に建てられた道しるべ。天保15年(1844)造立。正面に「ひき又 十五丁」、右側面に「山下河岸 三丁」、左側面に「所さわ 三里」、裏面に「川ごえ 三里半」と行先と距離が刻まれている。

43

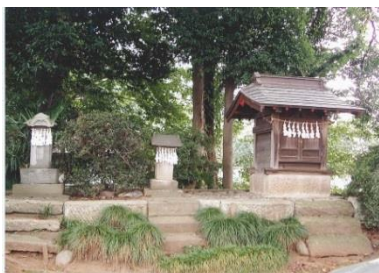
ふりがな じょうのしたごずてんのうぐうほこらとてんのうさまのまつり

名称 城の下牛頭天王宮祠と天王様の祭り

地区 水谷  
水子

種別 民俗、石造物  
時代 近世～近代

指定



高野家東縁の庭先に、「牛頭天王祠」(唐破風型・文政13年(1830))が旧諏訪社と並んで立っている。毎年7月15日に近い土曜日に「天王様の祭り」と呼ばれる夏祭りが行われる。

44

ふりがな みずこじょうのしたぐみはやし

名称 水子城の下組囃子

地区 水谷  
水子

種別 民俗  
時代 近代～

指定 市(民俗)



明治35～38年(1902～05)にかけて、東京の小松川より教わった志木市の高橋雛吉氏から伝授されたといわれる。水子城の下組囃子連により保存継承され、現在まで中断したことはない。7月の天王様の祭礼で神輿を納めるときには必ず「岡崎」の曲をやるのが特徴である。

45

ふりがな おんたけさんたいしんひ

名称 御嶽山大神碑

地区 水谷  
水子

種別 民俗、石造物  
時代 近代

指定



神明坂の斜面中腹にある「御嶽山大神」の碑。碑には木内忠次郎とあり、木内家は修験者で先達をつとめたといわれる。傍らには不動明王石像があり、二童子を従えている。明治28年(1895)造立。

46

ふりがな しんこうじぞう

名称 真光寺地藏

地区 水谷  
水子  
(真光寺跡)

種別 石造物  
時代 近世

指定



耳垂れを治す地藏と言われ、毎月4日、14日には参拝する人がいたという。「水子の三地蔵」の一つで、富士見市にある四大地蔵の一つでもある。天明元年(1781)造立。

47

ふりがな じょうのしたあみだどうとかけく

名称 城の下阿弥陀堂と掛け軸

地区 水谷  
水谷東1

種別 歴史  
時代 近代

指定



本尊は、弘法大師の筆によると伝えられる阿弥陀三尊の掛け軸。昭和15年(1940)頃までは8月の御開帳の日には境内～参道にかけて露天商が出て賑わった。

48

ふりがな しんがしがわきゆうかどうのあおぞらこうえん

名称 新河岸川旧河道の青空公園

地区 水谷  
水谷東1

種別  
時代 現代

指定



新河岸川は「九十九曲り」と呼ばれる蛇行した河川であった。水谷東地区には、河川改修後も「準用河川旧新河岸川」として旧河道が残されている。以前は、沼として湧水池の機能があったが何度も水害の被害を受けたため、各種水防工事を行い、現在は青空公園として地域の憩いの場となっている。



49

ふりがな みずたにきょうだい  
名称 水谷橋台

地区 水谷  
水子

種別 建造物  
時代 近代

指定



柳瀬川に架かる東上線の煉瓦製の橋台。大正3年(1914)の東上線開業時に建造された。東上線は柳瀬川の低地部では土盛りした上を走り、道路との交差部分を橋梁とした。

50

ふりがな ふじみぼし  
名称 富士見橋

地区 水谷  
水子

種別 建造物  
時代 近世～現代

指定



江戸へ通じる主要な道を「江戸道」と呼び、川越街道に沿った庶民の身近な道として利用されていた。川越から富士見市内を通り柳瀬川を渡り志木市側へ渡る橋。古くから架けられていた橋で、ここからの富士山の眺望が美しいことから名付けられたと言われている。

51

ふりがな くりからふどうみょうおうとう  
名称 俱利伽羅不動明王塔

地区 水谷  
針ヶ谷1  
(栗谷津公園)

種別 湧水、石造物  
時代 近世

指定



湧水の流れの中に立ち、栗谷津の不動さん、と呼ばれてきた俱利伽羅不動明王の石塔は、嘉永元年(1848)地元の有力者6人により造立された。塔には俱利伽羅不動竜に変身した不動明王が、剣を呑み込もうとする姿が浮き彫りされている。高さ173cm。

52

ふりがな こそだてじぞう  
名称 子育て地蔵

地区 水谷  
針ヶ谷1  
(共同墓地)

種別 石造物  
時代 近世

指定



下に「子育て地蔵」と刻まれている。地蔵尊が西院の河原で鬼から子どもを救うという「地蔵和讃」が広まる過程で、現世にても子供を授け、守り、育てるという信仰が広まって、子育て地蔵の造像が普及した。子どもを抱いて、でんでん太鼓を持つ。天明13年(1842)造立。

53

ふりがな こくぼうぼさつ  
名称 虚空蔵菩薩

地区 水谷  
針ヶ谷1  
(共同墓地)

種別 石造物  
時代 近世

指定



天の神格化で福德と智慧を廣大無辺に持つことから虚空蔵菩薩と名付けられた。針ヶ谷では福德は穀物の豊穰であり田の神となった。田に住むウナギは大雨の後、田を抜けだして別の田へ移動する習性から大雨を呼ぶと恐れられてきた。ここでは虚空蔵菩薩の神使として崇められていた。延宝6年(1678)、鈴木長右衛門が造立。

54

ふりがな いちおくまんべんくようとう  
名称 一億万遍供養塔

地区 水谷  
針ヶ谷1  
(共同墓地)

種別 石造物  
時代 近世

指定



天明8年(1788)に万人講8人による造立。

55

ふりがな べんざいてん「おのひめさま」

名称 弁財天「おのひめさま」

地区 水谷  
針ヶ谷1

種別 石造物  
時代 近世

指定



「おのひめさま」と呼ばれ、齒の神様だと伝えられている。弘化4年(1847)造立。

56

ふりがな くりやづいせきかまあとしゆつどいぶつ

名称 栗谷ツ遺跡窯跡出土遺物

地区 水谷  
水子2003-1  
(水子貝塚資料館)

種別 考古資料  
時代 平安

指定



水子～針ヶ谷1丁目に広がる遺跡。栗谷ツの谷の斜面から平安時代(9世紀後半～10世紀後半)の窯跡が発見された。武蔵国の地方窯のひとつであり、窯跡からは須恵器や瓦が多数出土。瓦には入間郡の「入」が刻まれたものがある。

57

ふりがな きたどおりいせきだい8ごうほうけいしゅうこうほしゆつどいぶつ

名称 北通遺跡第8号方形周溝墓出土遺物

地区 水谷  
水子2003-1  
(水子貝塚資料館)

種別 考古  
時代 弥生

指定 市(有形)



針ヶ谷1丁目に広がる遺跡。弥生時代から古墳時代初めにかけての住居跡や方形周溝墓が多数発見された。第8号方形周溝墓は、一辺が約10mの溝をめぐらせたもので、中央の埋葬部からは遺体に服装された鉄製の剣とガラス製の青色の小玉が、溝からは壺棺が出土した。当時の柳瀬川流域に形成された一つのムラの長の墓と推測される。

58

ふりがな たんかまい

名称 炭化米

地区 水谷  
水子2003-1  
(水子貝塚資料館)

種別 考古  
時代 弥生

指定



針ヶ谷2丁目に広がる南通遺跡の弥生時代から古墳時代初めにかけての住居跡から炭化した米が発見された。長さが短く丸みをおびた粒は、今も栽培されている日本型と同種。弥生時代中期から台地下の湧水が流し出した湿地に水田をつくり、市内最初の稲作地である。

59

ふりがな おんたけしんこうのつか

名称 御嶽信仰の塚

地区 水谷  
針ヶ谷2

種別 記念物、石造物  
時代 近代

指定



神山氏の先祖彦平が、明治時代初期に講員の労力奉仕により築いたとされる、高さ4m、周囲40m程の「御嶽塚」。頂上には御嶽山神社碑などがある。鳥居(平成9年再建)の左側に築山記念碑があり、そこには180名の講員の名が刻まれている。

60

ふりがな きゅうすずきけおもてもん

名称 旧鈴木家表門

地区 水谷  
下南畑568-1  
(難波田城公園)

種別 建造物  
時代 近代

指定 市(有形)



木造平屋建、寄棟瓦葺の長屋門。規模は、桁行11間、梁間2間半。江戸時代に針ヶ谷村の名主をつとめていた鈴木家の屋敷に建てられていた。明治時代中期～後期の建築と推定される。現在は難波田城公園に移築。